

全国の火山活動状況

気象庁観測部地震課

気象庁が常時火山観測を実施している桜島・阿蘇山・浅間山・伊豆大島の4火山については、昭和51年1月以降3月末までの活動状況を、その他の火山については、報告をうけたものについて状況を要約した。

第1表 火山情報発表状況
(昭和51年1月～3月)

火山名	桜島	阿蘇山	浅間山	伊豆大島	草津白根山	三宅島
回数	3	3	3	3		1
定期						
臨時					1	

第2表 全国火山活動概況
(昭和51年1月～3月)

火山名	1月	2月	3月
桜島	▲	▲	▲
阿蘇山	△		
草津白根山			▲
諏訪之瀬島	▲	▲	×

注：▲噴火 △異常現象 ×未報告

桜島

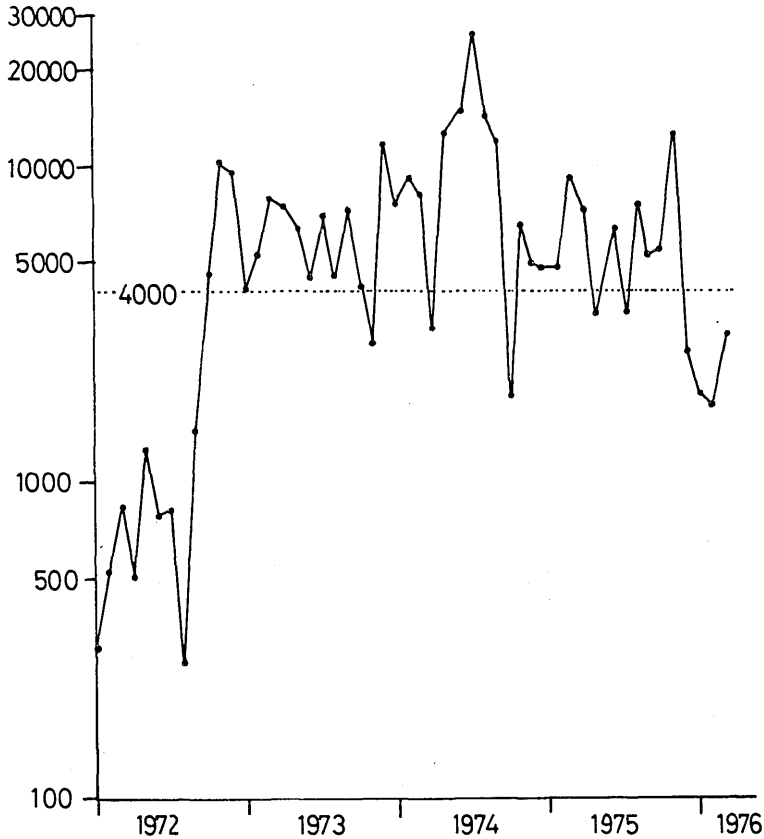
活動は続いているが、その程度は衰退してきた。爆発回数の推移は1月5回、2月4回、3月6回であった。

この期間にみられた活動の特徴は次のとおり。

ア。活動と休止の期間がはっきりしてきた。中量以上の灰色噴煙は1月21回、2月10回、3月30回観測されたが、白色噴煙の日も多く、少量程度の噴煙では白煙が定常化してきた。また爆発と爆発の間隔が間延びの傾向にあり、1月26日から2月25日まで31日間、3月9日から

4月6日まで29日間は爆発が起こらなかった。

イ。地震回数は昭和47年10月以降、毎月ほとんど4,000回以上の水準にあったが、50年12月以降は大幅に水準が低下した。すなわち50年12月2,592回、51年1月1,951回、2月1,749回、3月2,939回である(第1図)。



第1図 桜島火山性地震回数月別推移
観測点：鹿児島地方気象台桜島B点

ウ。2月8日、9日および29日に、南岳火口上に弱い火映が認められた。

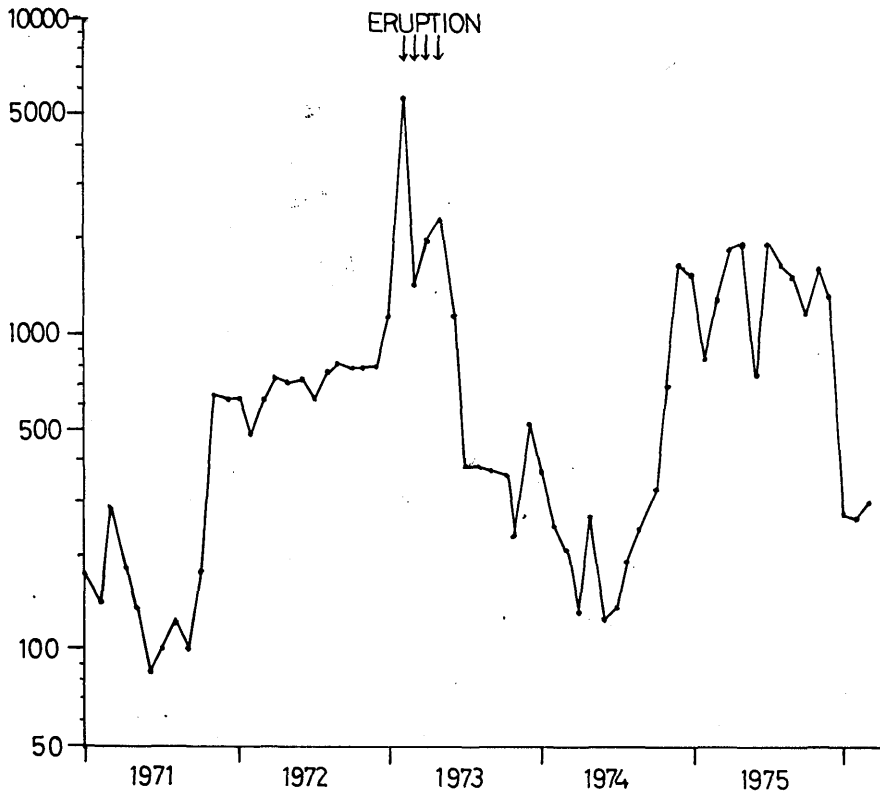
エ。桜島やその近くの地下深い所で発生する火山性地震(A型地震)は、昭和50年はきわめて少なかったが、51年に入り、1月上旬2回、3月上旬5回、下旬3回発生し、なかにはかなり深部に震源を有するものもある。桜島でのA型地震の発生は、これまで火山活動の活発化を示唆したとみられるケースが、しばしばあっただけに注目を要する現象である。

阿蘇山

中岳第一火口は1月7日と12日から14日にかけて、一時有色噴煙の活動となったが、その他は全般的に白色噴煙の静かな火山活動となった。鳴動もほとんどなく、火山性微動も平均0.3ミクロン前後で小さくなっている。

浅間山

火山性地震回数も減少し、引き続き変わった現象は認められず、静かな状態が続いている。火口にもっとも近いB点(火口の南1.8km)における地震回数は、昭和49年11月以来50年12月までは、毎月696~1,976回の高水準にあったが、51年1月274回、2月264回、3月294回と大きく水準を切り下げた(第2図)。



第2図 浅間山火山性地震回数月別推移
観測点：軽井沢測候所B点

伊豆大島

噴煙はみられず静かな状態が続いている。C点(元町)における火山性地震回数は、1月5回、2月152回、3月22回であった。2月の増加は12日から月末にかけて、大島と伊豆半島の間の海底下で地震が群発したため、23日と25日には島内の一部で有感のものもあった。

三宅島(3月22日 火山情報)

3月9日に雄山の現地観測を実施したが、噴気温度に大きな変化はなく、異常は認められなかった。

草津白根山(前橋地方気象台 3月12日火山情報)

3月11日、前橋地方気象台と草津町役場職員が草津白根山に登頂後、レストハウスから湯釜方面を望見したところ、湯釜と水釜の間付近にかなりの噴気活動のあることを発見した。これは今までとは異なった状況であるので、現地調査を実施したが、結果は次のとおりであった。

湯釜の西側に沿って水釜の火口底の貯水域(直径約100m)の北東部付近に直径約50m、深さ約10mの新噴気孔が形成されているのを発見した。当時の調査時点では、凍結のため新噴気孔底まで明瞭に観察可能な状況で、その北東部の3か所からかなりの勢いで、噴気が噴出していた。降灰は水釜の北東-北-西の方向に見られた。降灰の厚さは噴気孔の近くで7~8cm、旧火口壁頂上付近で1cmくらい、それより外側では急激に減少しているようにみえた。

一方、東京工業大学小坂教授は3月13~14日、現地調査を行い、15日、大略次のような調査結果の報告があった。

「噴気温度は92~93°C、噴出物は地表面下浅い所にある変質粘土鉱物(モンモナイト)で、細粒の火山灰のほか、15~30cmの溶岩片も出ているが、それらの中間のものは少ない。以上により一応、水蒸気爆発であったものと判断される」。

気象庁火山機動観測班は3月25日、草津白根山の現地調査を実施したが、水釜の噴気は勢い、量など、11日に前橋地方気象台が観測した時に比べ、やや衰退していた。

逢ノ峰の電磁地震計(水釜火口から1.3km、倍率5,000倍)の記録によれば、3月2日夕刻から夜にかけて、火山性地震が急増(B型地震16個、A型地震2個)しており、17時59分に爆発地震らしいものがみられるが、爆発音等の確認ができていない。

諏訪之瀬島(諏訪之瀬島分校の報告による)

50年11月 噴火 (9日、10日、19日)

12月 噴火 (7日、21日~28日)

51年 1月 噴火 (8日、9日、25日、27日)

2月 噴火 (14日、15日、19日、20日)